

オウム真理教対策住民協議会ニュース

鳥山地域
オウム真理教対策
住民協議会

地下鉄サリン事件の被害は続いている

―被害者・被害者家族へのアンケート調査から見えること―

講師 松井豊氏

鳥山地域オウム真理教対策住民協議会 第35回学習会要旨

11月11日(土)鳥山地域オウム真理教対策住民協議会が主催した、抗議デモは約200名が参加して行われた。その後東日本大震災やさまざまな惨事後に、被害者及びほすストレスなどの研究を手がける、筑波大学教授松井豊氏が、地下鉄サリン事件の被害者・被害者家族への、アンケートから見える実態を講演した。以下その内容を要約する。

講師は話に入る前に、この講演はサリン事件に関する情報を含みません。外傷的な体験に触れる部分もあります。適宜中座してください、と前置きして講演を始めた。地下鉄サリン事件被害対策弁護団からの依頼を受け、2014年に被害者や遺族に対して、アンケート調査を行い、サリンの直接的な後遺症だけでなく、周囲の対応がストレスを悪化させていることが明らかにされたことを、グラフなどを使い説明

した。アンケートは住所が分かる人935人に郵送し、回答は325件、有効回答は317件だった。



第35回抗議デモ行進

事件直後の被害者の経験

警官にいろいろ聞かれた56・9%。4人の刑事に犯人扱いされ、何両目に乗ったかなどを聞かれた。職場で「サリン」と呼ばれた、など被害者が社会から理解されない状況があった。サリン毒に効果があるといわれる「バム」を投与された人は、5人に1人だった。被害者・家族の事件後の影響は、生活リズムの変化、外出が減った、楽しみなどが減った30%台の一方、家族どうしで頼る気持ちが強くなった50%。周囲の人に心身の辛さを理解してもらえなかったは50%台と異常な高さを見せた。本人・家族の現在の気持ちは、自分の健康に不安を感じる、本人62%家族41%。事件を風化させたくない、本人72%家族71%。さらにオウム真理教の後継団体に怒りを感じる、本人69%家族82%と高い値を示した。被害者の心境では、「勤務中に激しいめまいが襲ったが、病院でストレスといわれ、サリンの影響と言えずつらい思いをした」「眼科で軽くあしらわれ理解してもらえず、全盲ではないので障害認定ももらえず、一生過ごすと思うとくやし」「原爆被害者証のような、サリン被害者証がないので人に説明も出来ない」「19年後の今でも電車内で缶、ペットボトルがあれば他車両に移動する」「PTSDになっても、相談治療する病院がない。孤独、不安、絶望で死にたい」「サリンの証拠がないので被害妄想といわれ、あげくは精神病院を紹介される」など、被害者の声は年を重ねることに深刻さを募らせている。

観察処分期間更新を求める署名の提出

オウム真理教(アレフ・ひかりの輪)に対して団体規制法に基づく「観察処分」の期限が、平成30年1月末と迫っています。住民協議会は、6回目の更新に向けて、4万筆の署名を目標に掲げ、町会・自治会を始め各種団体のご支援もいただき活動を続けてきました。お陰さまで、最終的には目標を上回る47,940筆という署名が集まりました。ご協力を頂きました皆さまに深く感謝いたします。

集約された署名を携え10月27日、足立区、石川県金沢市と共に世田谷区は、当住民協議会の古馬会長ほか4名が出席し、公安調査庁長官に署名を提出してきました。また、滋賀県甲賀市の住民協議会と札幌市の町会からも署名を託されました。

9月25日、東京地方裁判所が出したひかりの輪に対する「観察処分」を取り

被害者本人の身体状況

身体が疲れやすい57%、目が疲れる、かすむは70%と高い値で、サリン毒はまず目の異常が先にくる特徴がある。さらに事件の2年後と20年後の病状を比較すると、明らかに20年後の値が高く、サリン特有の経年悪化があることが分かる。これは若年層の被害者でも同じ値を示していることで、加齢による変化とは関連がないことは明らかとなっている。

外傷性ストレス症状(PTSD)

PTSD関連症状となっている人、被害者29・1%(一般社会では4・8%)、家族58・8%と高い。身体症状・目の症状・生活の変化・人間関係の問題すべてで、病院でちゃんと対応してもらえなかったと感じている人ほど症状がでてい

消す判決は地域住民にとっては予期せぬ事でした。しかし、住民協議会は、行政と協力し、風化を防ぐためにも怯むことなく声を上げ地道な活動を続けてゆきます。

12月13日には、法務大臣への観察処分期間更新の要請行動が予定されています。皆さまからのご支援に心えられるように力強く要請してきます。



る。さらにバムを投与された人、出社後に病院にいった人、病院に搬送された人、マスコミの取材を受けた人ほど症状がでてくる。これは、長崎の原爆被害者の33%が、被害体験を受け入れてもらえない、身体不安への思いを持ち、怒りが蘇ることとも共通する。目の症状はまだよく分からないことが多く、被害者がこれからも研究対象にされてしまうのではないかと、危惧を語った。講師は最後に「事件の風化が一番辛い」被害者の方の心身の健康とあのようなテロが起らないことを祈っていると結んだ。

*当日の講演に使用したレジュメが必要な方はご連絡ください。

e-mail: myazaki@myazaki-p.co.jp

第35回抗議デモ・学習会のアンケート報告

【実施日】平成29年11月11日(土)

【回収枚数】52枚

【参加回数】初めて(5)、2回目(4)、3回目(6)、4回目(5)、5回目(6)、6回目(3)、7回以上(21)

【抗議デモ・学習会への感想】

- ・被害者の傷は今だに癒えていない事がわかり、サリン事件というテロの凶悪性を改めて感じました。
- ・年月が経った今のほうが被害者の方々の辛さが高いという事に驚き、まさに事件はまだ続いているのだと思います。
- ・講師の声が小さく聞き取れなかったがプリントと同じ事を言っているのを見ていた。よく研究されていると思った。
- ・サリンへの理解が無いことが、よりPTSDの悪化を招いていると感じた。理解できる様な取り組みが必要です。今回の様な学習会は大変重要だと思いました。
- ・「続いている」というテーマは重く迫っています。私達はそれを正しく伝えなければならぬ。但し、先生が言われていた様にいかに伝えるかの工夫が必要です。
- ・統計的なデータがわかりやすく良かった。
- ・20年以上も前の事件といえど被害者等に精神的な症状が残っている以上この事件は終わらないと思った。
- ・被害実態を知る事が出来た。
- ・事件後の被害に遭われた方が改めて再確認できました。これからは抗議デモ・学習会は続けていきたいと思いました。
- ・事件の次の日、都心に行く用事があったが、出掛ける事が出来なかった。自身の体験と重なり毎回思い出す。
- ・デモに参加していると今や事件への記憶の風化、忘却とそこから来る無関心との戦いを感じます。記憶、体験を正確に伝えていく為に私達は努めねばいけません。

【住民協議会活動について】

- ・署名が4万7千余も集まったとの事、本当にすごいです。17年もの間地域の方々により、監視活動が続いてきた事、それが大きな圧力となっていると思います。
- ・風化させない為に若い世代にいかにして知らせたら良いだろうか、絶対に忘れてはいけない。
- ・立派な活動を、行政、議会、他の住民組織と連携され粘り強く活動を継続されている事に敬意を表します。
- ・他府県に転居しましたが毎回のデモや学習会の準備の大変さ等、痛切に感じています。出来る協力をしたいです。
- ・会場に入る時「オウム反対」の旗を見て小学生の子が「動物のオウム？」と母親に聞いていました。風化しているのが怖いと思いました。

- ・鳥山に長く住んでいるので、オウム真理教が移って来た時の驚きは忘れません。今迄働いていたので、この様な活動に参加したのは初めてですが関心はありました。今後も協力していきます。
- ・長年にわたって活動を続けられているにも関わらず今回の判決。事件を絶対に風化させない為に住民達が声を出し続けなければなりません。応援しています。

第35回抗議デモの抗議文

抗議文

オウム真理教が鳥山地域に集団入居して以来、今年の12月で17年になる。それまで平穏で安全な街が、その日を境に、住民の生活に暗い影を落とすこととなった。しかも住んだのは、住民が同居するマンションで、厳しい居住環境となった。さらに子どもたちは集団登校が課せられ、右翼団体が弾丸をドアに打ち込むなど、ただならぬ事態も発生した。

子ども達や若者を守り、鳥山地域を安全で安心な町にと、住民協議会が急速立ち上げられた。連日のオウム真理教施設前の監視活動。今年35回目となる抗議デモ・学習会。170号を迎える住民協議会ニュースの発行。団体規制法・観察処分の署名活動。活動資金のための募金活動など、多くの住民の協力を得た活動は、粘り強く継続された。

その結果2011年(平成23年)にオウム真理教後継団体アレフが退去。一方、ひかりの輪は、住民の安心安全な生活の願いとは裏腹に、未だ集団居住を続けている。しかも、本日の抗議デモの日程を知らず、聖地巡礼に、一方的に出掛けてしまうという、姑息な態度に終始している。

これは住民との融和を唱えながら、住民と接触を回避するという、卑劣な行為だ。さらにひかりの輪が、観察処分の解除だけを目的とした団体との正体も、益々明らかとなってきた。

このような時に、9月25日東京地裁に於いて、ひかりの輪に「観察処分取り消し」の判決が出た。しかし、地域住民と住民協議会は、この判決は絶対認めない。今後は、国が東京高裁で争うことになるが、その場でひかりの輪上祐史浩の欺瞞性が暴かれなければならない。

住民協議会はオウム真理教後継団体、ひかりの輪・アレフの解散・解体のため、これからも住民と共に、意気高く闘うことを宣言する。

平成29年11月11日

鳥山地域オウム真理教対策住民協議会
会長 古馬一行

第35回の講演を聞いて 寄稿

オウム真理教対策住民協議会を立ちあげてから17年活動を続けて来て、今はひかりの輪に対して解散を求める運動の現状です。

今回松井豊氏の講演を聞いて、ある意味目が覚めた気がします。私たちが運動を続けて来た意味、それはサリン事件の被害者の皆さんの代弁者になれること…これも活動の一つの目的のようにも思います。未だに後遺症に悩んでいる人、精神的苦痛に耐えて日常生活を続けなければならない人の存在が広く知らされず、その事が被害者の世間

に対する憤りにも変わって来ています。

私たちは、一連のオウム真理教事件を風化させることなく、未だ危険な集団であることを今回の学習会で再認識しました。さらに、被害に遭った皆さんの思いや現状を忘れる事なく語り続けて行く代弁者となる必要性も改めて感じました。

まだまだ知らない事の多い地下鉄サリン事件、機会を作って学習し、それをすべての人々に伝えて行きたいです。

住民協議会活動報告

11月22日(水) 実行委員会
11月27日(月) 編集会議・協議会ニュース171号初校正
12月4日(月) 編集会議・協議会ニュース171号再校正
12月5日(火) 事務局会議

12月12日(火) 協議会ニュース171号発行
12月13日(水) 要請行動(金沢、足立、世田谷合同で)
12月14日(木) 世田谷区主催「オウム真理教問題講演会」参加
12月14日(木) 実行委員会

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。